さわやかハイキング・個人山行報告書

通算山行NO	ＮＯ．１４６２	報告者	後藤隆徳・石和加代子
年　月　日	２０１１年７月２２日（金）～２４日（日）	２万５千	焼岳・笠ヶ岳・槍ヶ岳・穂高岳・上高地
山　　名	北ア・槍ヶ岳（３１８０ｍ）		
体力度＝３・普通　技術度＝３・普通　道標＝ある　駐車場＝ある　トイレ＝小屋 展望度＝よい　三角点名＝槍はなし			

やったね、槍ヶ岳

コース とタイム	１日目＝下土狩発１０：００ーカモシカスポーツー中尾温泉「望焼館」１６：３０（泊） ２日目＝望焼館発５：３０—新穂高発５：５６—穂高平小屋６：４４ー白出沢７：３５ー藤木リレーフ９：０６ー南沢出合９：３５ー槍平小屋９：５９ー飛騨乗越１４：２８ー槍ヶ岳山荘１４：４９～１５：１５ー槍ヶ岳頂上１５：３３ー槍ヶ岳山荘１６：０５（泊） ３日目＝　槍ヶ岳山荘発６：０８ー殺生ヒュッテ６：３５ーヒュッテ大倉６：４８ー東鎌尾根—水俣乗越８：２２ー大曲９：１１ー槍沢ロッヂ１０：０７ーー一ノ俣１１：０１ー横尾１１：４５ー徳沢１２：４８ー明神１３：３９ー河童橋１４：２７ー上高地バスターミナル１４：３５ー沢渡—カモシカスポーツー長泉着２１時すぎ
標高差	上り　新穂岳温泉約１０５０ｍ～槍ヶ岳３１８０ｍ＝約２１３０ｍ 下り　槍ヶ岳３１８０ｍ～上高地約１５００ｍ＝約１６８０ｍ
参加者	Ｌ後藤隆徳・村山忠彦・石和加代子・小松眞明＝４名

１日目（２２日）

今山行、「夜討ち朝駆け」は止め、余裕を持って昼発とした。ここまでは計画は万全だった。しかし、結果的に意外な落とし穴があった。

松本、カモシカ・スポーツで買い物。石和さんが登山靴、私はハーネスを新調。安房トンネルを潜り、中尾温泉「望焼館」に宿泊。料理はまあまあ。露天風呂が良かった。

２日目（２３日）

昨夜はワインをいただき、２０時半に就寝。夜半から大雨。朝食は普通にいただいた。ただ、トイレは下痢だった。車で出発時、少しめまいがしたが大きな問題はなかった。新穂高まで車を運転。６：００登山開始。

笠ヶ岳を仰ぐと、奇麗な青空がのぞいていた。これで今日の天気は約束された。今回私のみテント泊で荷物は１５Ｋｇくらい。軽荷の皆は軽やかに進む。

６：４５、穂高牧場着。荷物がとても重く感じられ、これではとてもキレットを越える自信がないと判断し、テント装備を牧場に預ける。美味しい牛乳をいただき再び出発。

しかし、この頃から足元が何か不安定でフラフラする。それでも道幅がある林道を何とかたどり白出沢（しらだしさわ）を通過。

ここから狭い杣道になる。歩きは、ますます不安定で気持ちも悪くなる。堪らず休憩するが、手で木を掴んでいないとグラグラする。休憩後、少し上るがアウト。皆に事情を伝え、先行して貰う。貴重な休暇とお金を使っての山行である。迷惑は掛けられない。

一応、元気になれば後から追っかける約束だったが、気持ちはますます悪くなり、無理と判断し下山する。しかし、暫くすると激しい嘔吐が始まった。頭・胸・腹が気持ち悪く、５分歩いて１０分休む連続。うずくまっていると、登山者が鼻歌で上下する。登山は健康でないと出来ないと痛感・・・。

とにかく、ふらつき歩けない。いつ崖下に落ちるか分からない。左手を山腹について何とか下山。途中で下山中の御婦人が心配してくれ立ち止まってくれた。そこで、警備隊に白出沢まで車で迎えに来てくれるよう依頼する。登山を始めて４５年。こんなことは初めてで、屈辱的なことだったが、そのくらい危機的状況だった。

白出沢から３０分の行程を１時間半掛かり、やっと林道にたどり着く。ここで３０分ほど待って１３：００ころ警備隊車に拾われる。車に揺られると、気分の悪さは最高潮に達し３回嘔吐が続き、黄色い胃液も出なくなってしまった。

登山指導センターで事情聴取。聞くのは若いヒロタ警察官。大阪出身で、オジイさんの影響とかで「ワシ・ワシ」を連発で可笑しくて仕方がなかった。聴取はあらかじめ登山計画書を提出してあったのでスムースにいった。ただ、意外だったのは、私の生年月日を西暦で記入してあったら、「昭和何年ですか？」と聞かれた。常識で下二桁からマイナス２５でＯＫだが、知らなかった？？

指導センターのソファーで１７時まで休む。救急車で病院搬送を勧められたが、高山市まで行ったら帰りが困るので断った。警備隊は、警察官１、消防署などの民間１０くらいの割合で構成されていた。中には女性もいる。無線を聞いていると、笠ヶ岳方面も日常的にパトロールを行っている。

我々の知らないところで踏ん張っている。彼らは、縁の下の力持ちの存在だった。

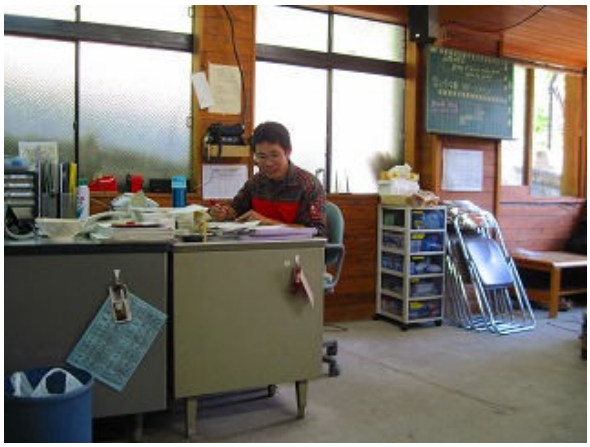
１７時、再び車で送って貰い駐車場着。車に横になり、暮れゆく新穂高の山々を仰ぐ。明日、元気になったら、穂高平から南岳に上り、皆と合流して北穂～涸沢岳をやるかと、しきりに思ったが、ちょっと無理な相談だった。

今回の顛末を考えた。山行前は、巡礼もウォークもなく特に疲れはなかったと思う。ただ、ちょっと冷たいものを飲み過ぎていた傾向で胃腸は弱っていたかも知れない。めまい・ふら

つきの原因は全く不明。加齢なのか、たまたまなのか。それとも食中毒・熱中症？？。めまいの原因は難しいようだ。

以前、メニエール病は経験している。下山後、脳のＭＲＩは問題なかった。今後もこれが続くようだと問題は大きい。

（ここまで後藤記）



ヒロタ警察官

（ここから石和記）

２日目は５時に朝食をしっかりとり、車で新穂高温泉へ。今日は晴れそうだ。笠ヶ岳がくっきり見えた。いいぞいいぞ！小屋泊まりだから荷物はあまりないと思っていたが、アイゼンやヘルメットなどでなぜか私のザックがみんなよりふくらんでいる。まずい！荷物の選択、軽量化をよく考えるべきだった。小松さんにとってはデビューの山行。おのおの期待と不安を胸に秘めて、標高差２１３０ｍ先にある槍ヶ岳へ踏み出す。しばらく林道を歩き続ける。白出沢を渡ると登山道になったが、８時４０分頃、後から行くというリーダーの後藤さんと別れる。

村山さんが地図や目印を確認してリードしてくれる。樹林帯を抜けて、飛騨沢の登りが始まると傾斜が増してくる。あたりは開けて、お花畑が広がる。時々山の上の方をガスが覆うが、右側に連なる恐竜の背中のような山容はかっこいい。千丈乗越への分岐には白い救急箱が置かれていた。靴のテールの修理品も入っているようで、ここまで来る途中で両靴手当をした靴を履いていた人が下山してきたのに出会った。

この鉢の中のようにだだっ広い空間が長い。咲き乱れる花に思いを寄せるが、名前がわからないものがあり残念だ。もうひとがんばりと何度もいって、ようやく標識が見えた。飛騨乗越だ。日本一標高が高い峠だそうだ。回り込むと、槍ヶ岳がすぐ向こうに見えた。ワオ～！鋭い切っ先を突きあげ、すごい迫力だ。さらに急な登りを少し進むと、番号板とテントがでてきて、槍ヶ岳山荘に着いた。約９時間だ。

ケータイで後藤さんと連絡がつき、状況を聞いてびっくり仰天。宿泊の手続きをすませ、荷物を外に置いて、そこにそびえる槍ヶ岳の穂先に向かう。下から見ると怖そうだが、岩場

は手をかけられるところがあるので、意外とおもしろい。天に向かって登っている感覚だ。頂上直下は長い梯子が上り、下り専用に付いていた。幸い混み合ってなかったので、スムーズに進めてよかった。ここがあのどこからもひと目でわかる槍の穂先かと思うと感慨深いものがあった。岩峰の頂上には祠が１つあり、広くはないが十人ほどいた。ガスがかかったりで、展望はまあまあ。今日一日で、念願の槍ヶ岳へ登ることができた。まずは、感謝。

憧れの槍でバンザ～イ！！

３日目（２４日）

日の出は薄いガスの中でした。今日は予定では正念場の縦走、大喰岳―南岳―北穂高―涸沢岳―穂高岳山荘泊まりだったが、それは取りやめ、昨日のコースをもどることにする。ところが出発直前の後藤さんの指示は東鎌尾根から上高地へ下るもので、あわてて山荘にあるパンフレットで確認。地図も予備知識もない状況で、３人でしっかり歩こうと暗黙の了解をする。

槍ヶ岳から遠ざかっていくが、振り返る位置で別の姿を見せてくれる。左手の北鎌尾根は荒々しい尾根が続いている。右手には歩く予定だったコースが見えるが、とても厳しそうだ。登山者が見える。正面には常念岳、大天井岳も見える。とにかく山、山、山だ。水俣乗越、大曲で別のルートからの登山者と出会う。槍沢ロッヂでは、林の間から槍の穂先がのぞけるよう望遠鏡が三脚に設置されていた。これで槍ヶ岳ともおさらばかと別れを惜しむ。それからはもうひたすら下る。右の沢には勢いのある水が下る。きれいで冷たそうだ。ようやく横尾に着いた、やれやれ、もう大丈夫だ。山荘から約５時間半、１１km の行程だった。

ところがなんと上高地ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙまでも同じ１１km あるとの標識。以前登山の行きにこの道を通った時は意気揚々と歩いたが、今回帰りに通るとなんとも長いのには参った。歩くこと２時間半。上高地ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙはバスの大混雑で、タクシーに乗ったが、しばらくはまったく動けない。西穂高岳への稜線上にホバリングしているヘリコプターが見える。遭難か。後藤さんが待つ沢渡へ向かい、１日早く切り上げて、家路に着いた。

いろいろ考えさせられる山行となった。

素晴らしい
東鎌尾根を下山

花の楽園

白系

なんといってもハクサンイチゲ（白山一華）
ゴゼンタチバナ・ミヤマカラマツ・マイヅルソウ・ツマトリソウ・アオノツガザクラ・チングルマ・センジュガンピ・ヤマハハコ・シラネセンキュウ・シシウド・シャクナゲ・キヌガサソウ・ヤグルマソウ

黄系

ホトトギス・キツリフネ・キバナノヤマオダマキ・イワベンケイ・クモマスミレ・シナノキンバイ・ニッコウキスゲ・キジムシロ・シナノオトギリ

赤系

イワカガミ・ノアザミ・ヤマホタルブクロ・ハクサンチドリ・ベニバナイチヤクソウ・シモツケソウ・ハクサンフウロ・タカネシオガマ

青・紫・他系

クガイソウ・ギボウシ・ヤマオダマキ・エンレイソウ・ツクバネソウ・クロユリ・サンカヨウの実

このほかにも記録できなかったもの、名前のわからないもの有り。